今月の一品

プリカジュールのスプーン（19世紀・ノルウェー）

当館の伊藤豊成コレクション 世界のスプーン館では、日本の博物館では珍しい5000本にわたる世界中のスプーンが展示されております。中でも豊かな色彩のプリカジュールスプーンは、ひときわ多くの来館者を魅了しています。

19世紀頃まで、ジュエリーの価値は、金やプラチナなど希少性が高く比較的高価な貴金属をどれだけ使用するかで決まっていました。しかし、このプリカジュールスプーンは、高度な技法とその美しさから、工芸品でありながらジュエリーと同等の価値を見出したとされ、当時の万国博覧会などに出展された途端に話題となり衝撃を与えました。

作り方は、非常に繊細で、銀などで作られたワイヤーの枠の内側に透明の色付きエナメルを流し込んで焼成する技法です。金属の枠だけでエナメルを固定するため、ステンド・グラスと似たような色彩効果が生み出されますが、作り方が全く異なり、焼成中の釉薬の膨張や窯出し後の温度差でエナメルが剥がれたり割れたりするため、非常に高度な技術を要するとして、現在では「幻の技法」とも呼ばれています。

燕市産業史料館
☎0256・63・7666
（月曜日休館）
■入館料
大人400円
高校生以下 100円
※団体割引あり

大河津分水コラム 次の100年に向けて

大河津分水通水は朝の5時

1907（明治40）年の大河津分水工事着工時点ではもっと早く大河津分水は通水する予定でした。しかし、掘削した箇所を埋めてしまう程の大規模な地すべり、風土病と呼ばれたツツガムシ病の発生、資機材の高騰による予算確保の困難さなどがあり工事は遅れていきます。それでも延べ1000万人の人々は横田切れのような水害を起こしてはならないと諦めずに工事を進め、1922（大正11）年に入ると通水の見通しが立ってきます。

大河津分水の通水は信濃川の増水をねらって計画されました。水位が高いときに大河津分水路と信濃川を隔てていた堤防を爆破し、勢いよく分水路に信濃川の水を流すことで、分水路の途中で滞留を起こすことなく通水させようと考えたのです。お盆を過ぎた頃から新聞には「大河津分水いよいよ通水か?!」の見出しが出始めるようになります。そして、1922年8月25日午前5時40分に、大河津分水は通水しました。

▲通水のための爆破の瞬間

地域おこし協力隊の奮闘日記 vol.52

今年度から毎月、移住者の皆さんを対象に交流会を開催しています。

5月は「鶏肉のレモン和え」を作る料理教室を行いました。から揚げを揚げる音とともに会話が弾み、いい雰囲気の交流会でした。

燕市の食文化を知ることを目的として、枝豆やいごねりの話のほか、「燕市で楽しんでいること」「県外の人にお勧めできるポイント」の2つでワークショップを行い、皆さんからは「燕の景色が好き」「温泉にすぐ行ける」「お米がおいしい」など燕の暮らしを楽しんでいる話が聞けました。

実は私、高校と大学ともに家政系の学校だったので料理は得意分野です。今後の交流会でも料理教室を開催して、食文化を移住者の皆さんにも広く知ってもらえるように頑張ります！

燕市地域おこし協力隊
森　瑞稀
（前列右から2番目）

camera view

●「広報つばめ」だけでは物足りないあなたへお送りする「Web版カメラびゅう」
https://www.city.tsubame.niigata.jp/keikaku/koho/2_1/index.html

●市内の出来事や、頑張っている皆さんの姿を紹介するコーナーです。

「燕手仕事展」7月10日㊐まで開催中

●6月3日　燕市産業史料館

鍛金ミニチュア「小景」 作：須佐 真

1973年の開館以来開催している「燕手仕事展」。熟練の職人から新進気鋭の若手の作り手まで見応えのある作品が展示されています。この機会にぜひご覧ください。

学校給食に寄附いただきました

●5月17日　吉田中学校

本町そ菜出荷組合様から寄附いただいた「もとまちきゅうり」が、市内の小・中学校の給食に登場。歯応えも良く、梅風味のさっぱりとした味付けでごはんも進みました。

地域の偉人 文臺と良寛を想う

●6月11日　長善館史料館

長善館初代館主・鈴木文臺と良寛ついての講話と逸話朗読会を開催。当時の長善館での学びや情景が目に浮かぶ朗読など、地域の偉人に触れる貴重な時間となりました。

自転車の走行は一列で！

●5月20日　吉田東町地内

吉田高校自転車競技部が、燕警察署から「自転車安全リーダー」に委嘱されました。安全運転の手本となるとともに、街頭指導など啓発活動を行っていきます。

今月のつばめっ子

●元気なつばめの子どもたちの様子をお届けします！

激走！熱戦！笑顔があふれた運動会

●5月21日　分水小学校

待ちに待った運動会。音が出る応援グッズの作成など、コロナ禍でも盛大に開催されました。新1年生の開会宣言に続き、応援合戦や徒競走、団体競技、リレーなどが行われました。全力を尽くした熱戦も戦い終わればノーサイド。勝っても負けても互いの健闘を称え合いました。

なるほど！長善館

長善館史料館　☎0256・93・5400

● 1833年に創設された私塾「長善館」。革新的な教育を行い、約80年の運営で約1000人の塾生を輩出しました。

◀長谷川鉄之進と高杉晋作の詠んだ詩が併記されている扇面（新潟県立文書館所蔵）

長谷川鉄之進（粟生津生まれ）は、文臺に学び、11年在籍し、「※都講」まで務めました。

議論好きで酒好きであるとの逸話が多く伝わっています。ペリー来航以降は尊皇攘夷を訴え江戸・九州など各地を遊説。全国での人脈の広さは、周囲に一目置かれていたようです。お酒の功名かもしれません。波乱の人生は50歳で幕を閉じました。京都市の霊山護国神社で、高杉晋作、坂本竜馬ら維新の志士と並んで葬られています。3人は時空を超えて理想の国づくりを語っているに違いありません。

※都講…塾生のかしら。